

# 令和5(2023)年度農業試験場カーボンニュートラル研究セミナー開催要領 ～ 水田から発生するメタン抑制技術の紹介 ～

## 1 目的

2050年カーボンニュートラルの実現を目指して、農林水産業での温室効果ガス発生量の25%程度を占める水田から発生するメタンを抑制する必要がある。

水田から発生するメタンは、中干しを7日間延長することによって3割程度抑制されることが知られており、環境保全型農業直接支払交付金の取組メニューとして設定されている。また、J-クレジット制度でも2023年3月に、その取組が追加された。

本試験場では、農研機構とのプロジェクト研究によって、県慣行の水管理である間断かん水と中干し延長を比較し、中干し延長によるメタン発生抑制の効果を確認する試験を実施している。また、精緻な水管理によってメタン発生を効果的に抑制するため、ICTを活用した自動水管理システムの使用法を検討している。

本セミナーでは、メタン発生抑制の技術や現在実施している試験内容等を紹介することで、今後のカーボンニュートラルに向けた取組についての機運醸成を図る。

## 2 日時

令和5(2023)年8月8日(火) 13:30～16:00

## 3 場所

- ・講演：那須塩原市ハロープラザ（那須塩原市関谷）2階会議室
- ・現地試験ほ場：那須塩原市宇都野  
(ハロープラザから現地ほ場までは車で10分)

## 4 内容

### (1) 講演 (13:30～14:30)

- ・「中干し延長」技術の紹介と「J-クレジット制度」での取組について (30分)  
講師：農研機構 農業環境研究部門 須藤重人氏
- ・中干し延長と生物多様性保全の両立に向けた試験について (15分)  
講師：農研機構 農業環境研究部門 大久保 悟氏
- ・栃木農試でのメタン発生抑制試験内容の紹介 (15分)  
講師：県農業試験場 土壌環境研究室 担当者

### (2) 現地ほ場での試験内容の紹介 (15:15～16:00)

- ・ICT水管理によるメタン発生抑制試験内容の紹介  
講師：農研機構 農業環境研究部門 須藤重人氏、県農業試験場 担当者
- ・中干し延長と生物多様性保全の両立に向けた試験内容の紹介  
講師：農研機構 農業環境研究部門 大久保 悟氏

## 5 参集範囲

農業者、農業団体、市町、農業高校、県関係機関など